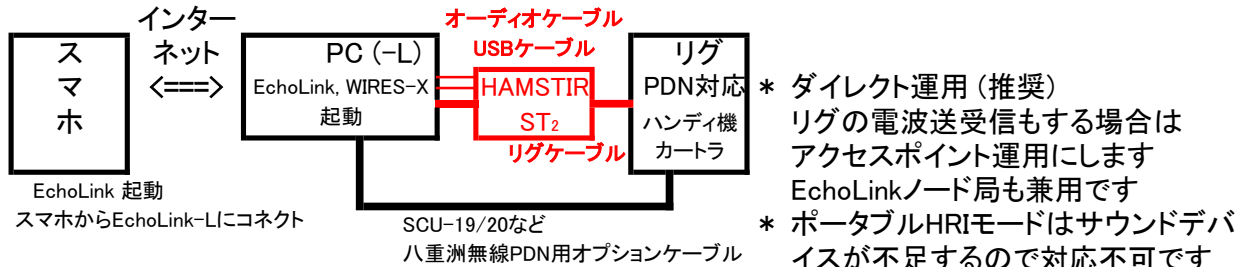


WIRES-Xのアナログノード局がポータブルデジタルノード(PDN)局と交信できないということで、EchoLinkとのゲートウェイ接続を構築して解決するものです。
D-STARについては、スマホ対応のプログラムRS-MS3がリリースされているので、EchoLinkとのゲートウェイ運用にこだわらなければ簡単にスマホ対応できます。



ポータブルデジタルノードモード(PDN)対応のリグを使用します。
このリグは、ハンディ機であれば、ヘッドセット(MIC, SP)端子に接続し、
カートランシーバータイプであれば、フロントのMIC端子とリアのEXT.SP端子に接続します。
リアのデータ端子は八重洲無線オプションケーブルでPCに接続します。
ポータブルデジタルノードモード対応限定で、交信できる局は以下の条件になります。
八重洲無線のサイトにあるマニュアルの通りに設定し運用します。

WIRES-Xポータブルデジタルノードモード(PDN)の交信可能相手局

1. デジタルオープンルーム内の各局
2. デジタルノード局
3. ポータブルデジタルノード局
* WIRES-Xのアナログノード局とは交信不可ですが、
4. ゲートウェイ接続により、EchoLink側のアナログノード局やカンファレンス接続局と交信できます。FMノード局にハンディ機などからもアクセス交信できます。

ポータブルデジタルノードモードでの設定運用ができたなら、次に、EchoLinkの設定に移ります。
WIRES-Xと同じ PCに EchoLinkもインストールして、この一台と PDNリグで運用します。

一旦、PDNモードは解除して通常モードに戻して、HAMSTIR STとリグで EchoLinkノード局を構築します。ノード局の運用ができたなら、WIRES-Xとのゲートウェイ接続運用に進みます。

1. EchoLinkをダウンロードしてインストールします。
先に、免許状の画像(.JPG写メ)を用意して、EchoLinkサイトで認証番号を申請取得しま
シングルユーザーモード(スマホ用)とシスオペモード(-L用)それぞれを取得します(無料)
2. HAMSTIR STをPCに接続して、COM番号を取得します。
3. EchoLinkを起動してノード局の設定をします。
詳細はHAMSTIR STの説明書を参照してください。RX ctrl画面では"VOX"にします。
リグにケーブルをつないで他のハンディ機などと交信出来ればノード局は完成です。
音量調整は各目盛り位置をいつも同じにします。
4. EchoLinkノード局のままで、リグをポータブルデジタルノードモードにします。
5. リグとWIRES-Xを起動して、ポータブルデジタルノード局を立ち上げます。
これでEchoLinkとWIRES-Xのゲートウェイが開通です。相互の交信ができます。
EchoLinkノード局にはスマホ運用局をはじめ、他の局もコネクできるの
混信対策としてコネク局を限定するのも場合によっては必要かもしれません。
6. EchoLinkをインストールしたスマホでEchoLinkノード局にコネクすることで
WIRES-X接続局との交信ができます。

それぞれのノード局の構築は時間と慣れが必要です。一朝一夕にできるものではありません。
どちらかのノード局だけで数日間運用して慣れたところで次に進んでください。